

受益者の皆様へ

DIAMアセットマネジメント株式会社

「DIAM高格付外債ファンド(愛称:トリプルエース)」の第30期分配金について

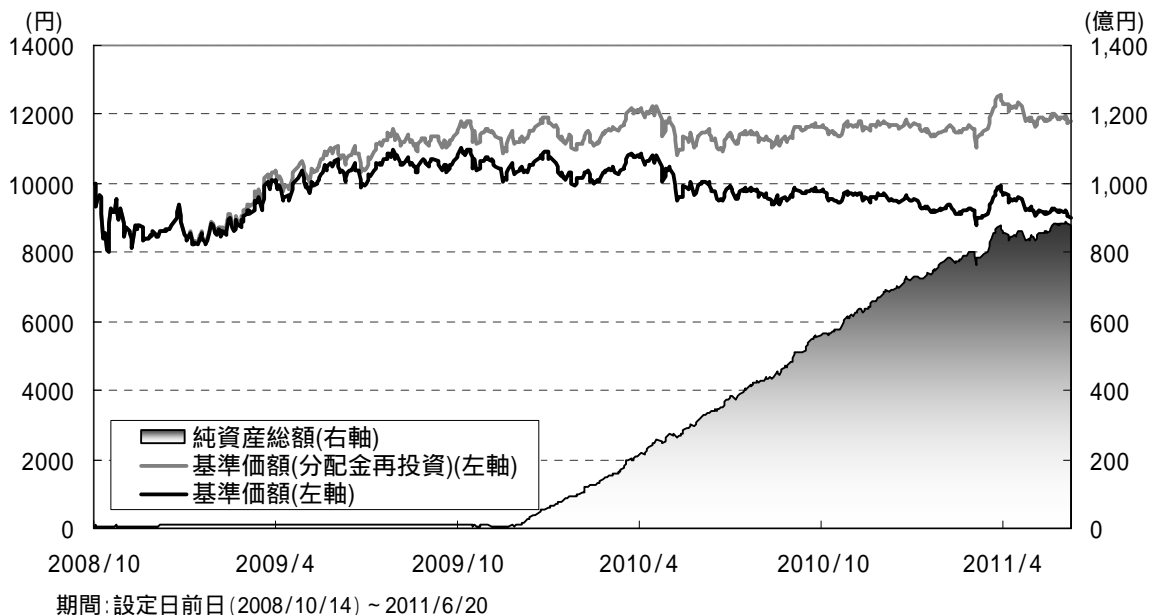
平素は、「DIAM高格付外債ファンド(愛称:トリプルエース)」(以下、当ファンド)をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度、当ファンドは第30期(2011年6月20日決算)の分配金を80円(1万口当り、税引前)に決定しましたのでお知らせ申し上げます。次ページ以降のQ&Aにおきまして、分配金の引き下げの背景や運用の状況についてご説明させていただきますので、ご参照の程、お願い申し上げます。

分配実績

決算期	決算日	分配金(税引前)
第1期～第9期	2009年1月19日～2009年9月24日	70円
第10期～第14期	2009年10月19日～2010年2月19日	85円
第15期～第29期	2010年3月19日～2011年5月19日	100円
第30期	2011年6月20日	80円
累積分配金		2,635円

基準価額と純資産総額の推移



上記運用実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

基準価額(分配金再投資)は税引前の分配金を再投資したものと計算しておりますので、実際の基準価額とは異なります。

分配金再投資後基準価額 = 前日分配金再投資後基準価額 × (当日基準価額 ÷ 前日基準価額)

(決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)

基準価額は信託報酬控除後です。

当資料は7枚ものです。P7の「本資料のお取扱いについてのご注意」をご確認ください。

DIAMアセットマネジメント

商号等 : DIAMアセットマネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第324号
 加入協会 : (社)投資信託協会 (社)日本証券投資顧問業協会

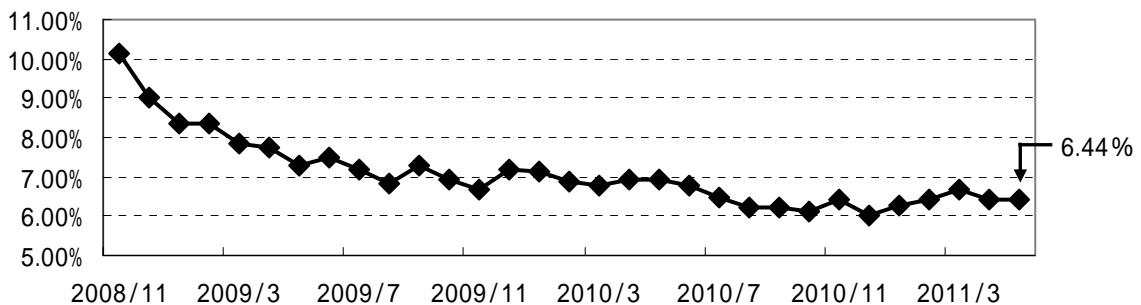
Q1.分配金を引き下げた理由は何ですか？

当ファンドは2008年10月15日に設定され、2011年5月末の分配金再投資ベース基準価額は、11,891円となり、設定来の騰落率は+18.91%となりました。この基準価額の上昇は、債券の利子収入を積み上げたこと、金利低下によって債券価格が上昇したこと、ファンド設定時と比較し円安傾向になり為替益を獲得したことによるものです。なお、当ファンドは2011年5月末までに2,555円(1万口当り、税引前)の分配金をお支払いしたため、分配落ち後の基準価額は、9,172円となっております。

今回、分配金を引き下げた理由は以下の通りです。

2008年の金融危機後に投資対象各国が金融緩和を行ったことで、当ファンドの投資対象債券の利回りは低下しました。この結果、債券の利子収入が減少しました。

【ポートフォリオ平均利回りの推移】



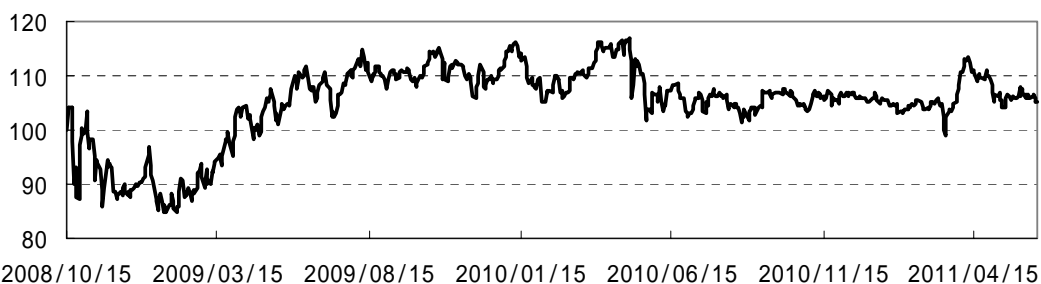
2008/11 2009/3 2009/7 2009/11 2010/3 2010/7 2010/11 2011/3

ポートフォリオの平均複利利回り。

当ファンドが実質的に組入れている有価証券の評価総額を基に計算しています。
期間: 2008/11 ~ 2011/5 (月末営業日の値)

投資対象債券の為替レートは、設定時に比べ円安水準ではありますが、足許やや円高傾向となっております。この結果、基準価額が下落することとなりました。

【為替レートの推移】



2008/10/15 2009/03/15 2009/08/15 2010/01/15 2010/06/15 2010/11/15 2011/04/15

期間: 2008/10/15 ~ 2011/6/17

為替レート: 投資対象通貨を合成し、当初100として指数化したもの。新興国(ブラジル、トルコ、南アフリカ)と先進国(オーストラリア、ニュージーランド、ノルウェー)を2:1、先進国と新興国の中での国別比率はそれぞれの3カ国等分として合成しており、あくまで参考値となります。

出所: BloombergよりDIAM作成。

このような投資環境や足元の基準価額水準などを総合的に勘案した結果、今後も安定分配を行うための分配原資を確保するとともに、基準価額の下落を緩和することを目的として、分配金を引き下げることといたしました。

当資料は7枚ものです。P7の「本資料のお取扱いについてのご注意」をご確認ください。

DIAMアセットマネジメント

商号等 : DIAMアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第324号

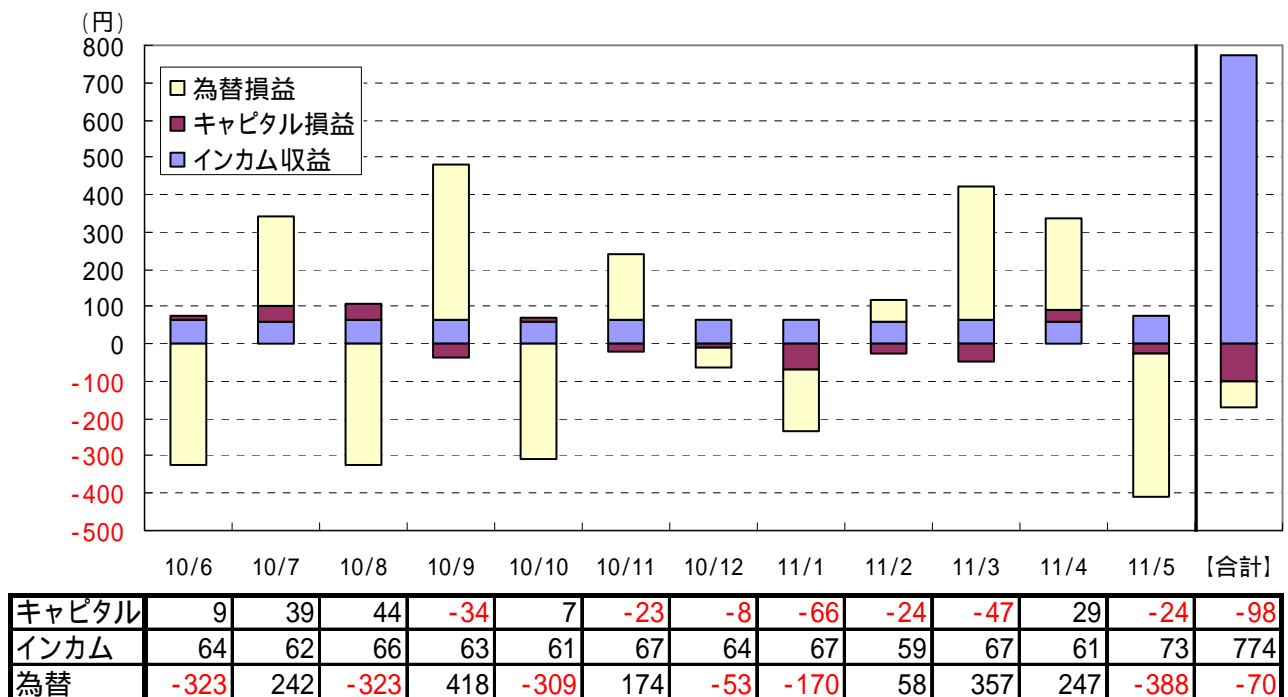
加入協会 : (社)投資信託協会 (社)日本証券投資顧問業協会

Q2.基準価額の変動要因は何ですか？

現在、当ファンドは、オーストラリア、ニュージーランド、ノルウェーの各自国通貨建て国債及び州債、並びに国際機関債マザーファンドの組入れを通してブラジル、トルコ、南アフリカの各国通貨建て国際機関債に投資を行っております。投資対象債券はすべて最上位格付 AAA を維持するなど、信用リスクは極めて限定的です。加えて、残存期間の短い債券を組入れることで、金利リスクを抑制しています。したがって、基準価額の変動要因は主に為替リスクによるものとなっています。

当ファンドの直近1年間の基準価額の変動要因を、インカム収益(経過利息を含む利子等から得られる収益)、キャピタル損益(金利変動の影響による債券単価の変化と売買損益の合計)、および為替損益に分解すると、以下のグラフのようになり、毎月の基準価額の変動要因は主に為替損益によるものであることが確認できます。また、投資対象債券の相対的に高いインカム収益が為替変動のクッションとして機能し、当ファンドに安定的なリターンをもたらしていることが分かります。

【当ファンドの過去1年における基準価額の変動要因】



期間:2010年6月～2011年5月

上記の要因分析は「簡便法」によって行っておりますので、実際の数値とは異なります。傾向を知るための目安としてご覧下さい。

信託報酬および分配金による基準価額変動要因は除いています。

【合計】のデータは、過去12ヶ月間の月次変動要因の額を各々単純合計したものです。

当資料は7枚ものです。P7の「本資料のお取扱いについてのご注意」をご確認ください。

DIAMアセットマネジメント

商号等 : DIAMアセットマネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第324号
 加入協会 : (社)投資信託協会 (社)日本証券投資顧問業協会

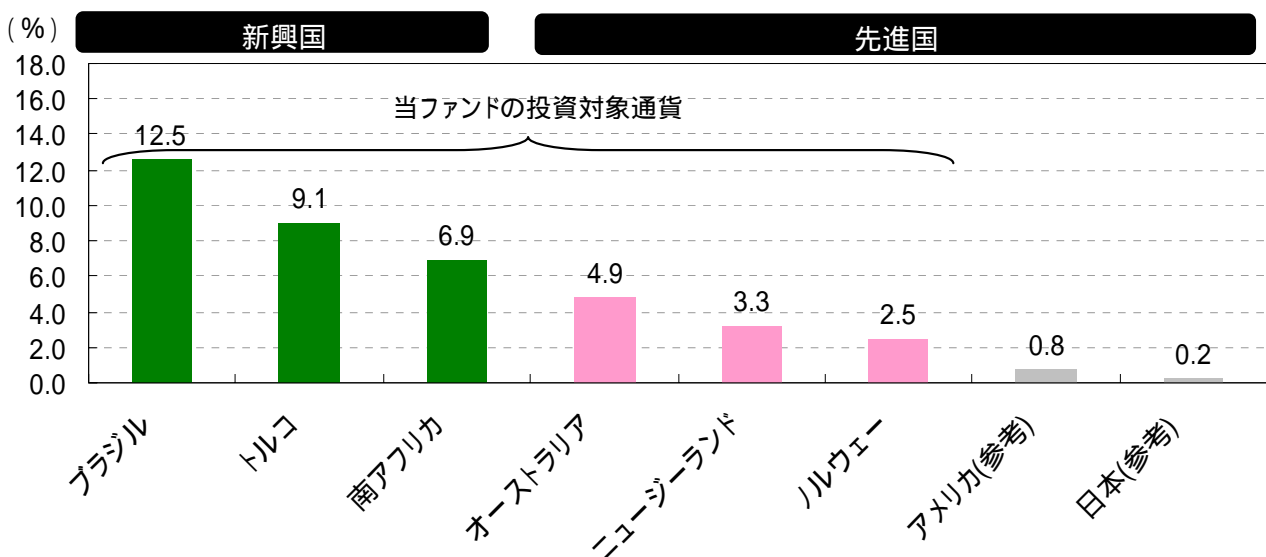
Q3. 分配金の少ないファンドは分配金が多いファンドより劣後しているのですか？

分配金が多い、あるいは少ないというだけで、ファンドの優劣は判断できません。分配金は運用資産の一部をお支払いしているもので、分配金をお支払いするとその分基準価額が下がることとなります。したがって、投資家の皆さまの投資収益は、投資期間中に受取られた分配金の累計額と投資期間における基準価額の騰落額を合わせて考える必要があります。ただ分配金が高いということだけでは投資成果が高いとはいえません。

Q4. 分配金を引き下げるといことは、今後の運用に期待できないということですか？

投資対象国の金利は全般に低下したものの、わが国を含む先進国の金利より引き続き高い水準を維持しています。また、ブラジルでは消費者物価指数の上昇を背景として、2011年6月8日に政策金利を0.25%引き上げて12.25%とするなど、新興国においては堅調な経済成長とインフレ抑制のため、急激な金利低下は考え難い状況です。

【各国の利回り水準】



2011年5月末時点。

利回りは、各国の3年国債利回りを使用。

当ファンドは、新興国部分を実質的にAAA格(Aaa格)の国際機関債に投資します。国際機関債の利回りは、上記の国債利回りよりも低くなる場合があります。

Q5. 今後、分配金を変更することはありますか？

当ファンドの分配金は分配方針にもとづき、委託会社が基準価額の水準、市場動向等を勘案して決定しております。このため、将来の分配金について、あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。また、今後の市場環境や運用状況によっては、分配金が変動する場合がございます。

当資料は7枚ものです。P7の「本資料のお取扱いについてのご注意」をご確認ください。

DIAMアセットマネジメント

商号等 : DIAMアセットマネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第324号
 加入協会 : (社)投資信託協会 (社)日本証券投資顧問業協会

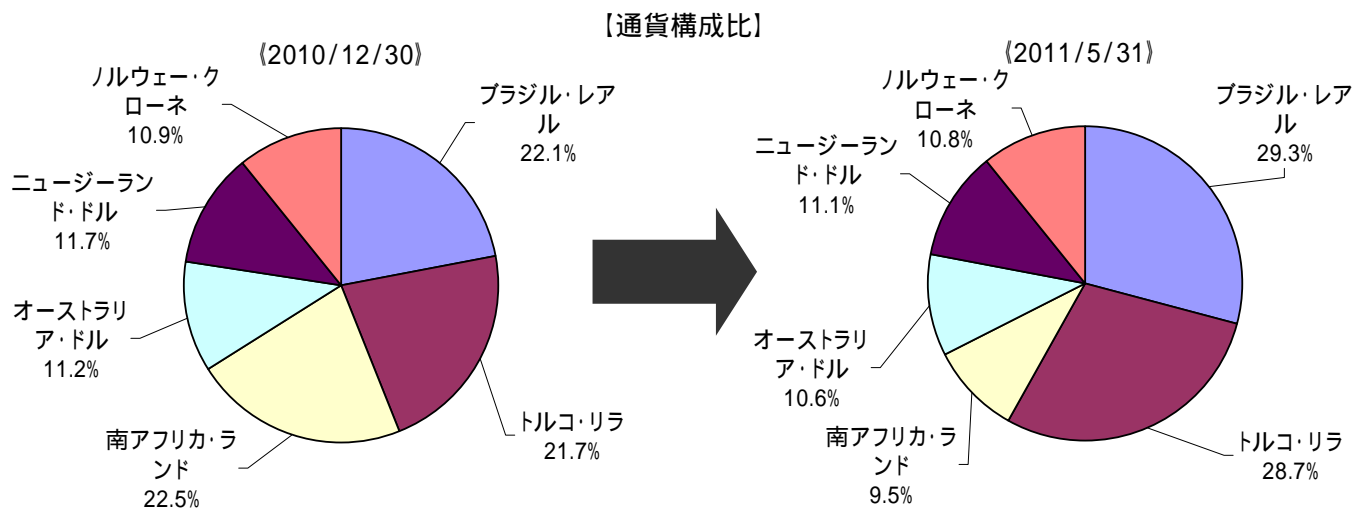
Q6.今後の見通しと運用方針は？

2011年5月31日現在の金融市場は、世界的な資金余剰の状況で、行き場のない資金が新興国などのリスク性資産に流入しやすくなっています。また、新興国ではインフレ懸念が醸成されている一方、足元、デフレ局面から脱し切れずにいる日本においては当面超低金利政策が維持される見込みであり、中長期的に見て当ファンドの組入れ対象通貨については対円で底堅く推移するものと見ています。なお、これまで商品市況等、リスク性資産に資金が流入し過ぎたこともあって、目先、調整局面が長期化するリスクがあることや、日本や中東・北アフリカ情勢不安、欧州周辺国での財政不安等の不確定要因によるリスク許容度の変化には留意が必要となります。

今後の運用方針としては、引き続き、国際機関債マザーファンド受益証券を通じて実質的に「AAA格の国際機関債」に、また直接「AAA格の海外国債等」に、それぞれ投資することにより、信用リスクを回避しつつ相対的に高い利回りと為替益の獲得をめざして運用を行います。

また、ファンドのポートフォリオ平均利回りの向上を図るため、2011年2月より、相対的に利回りの高い新興国への投資比率を高め、かつ新興国の中でも相対的に金利の高いブラジルとトルコの投資比率を高めており、今後もその運用方針を継続する予定です。

将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更される場合があります。



比率は当ファンドが実質的に組入れている有価証券の評価額に対する割合です。

以上

当資料は7枚ものです。P7の「本資料のお取扱いについてのご注意」をご確認ください。

DIAMアセットマネジメント

商号等 : DIAMアセットマネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第324号
 加入協会 : (社)投資信託協会 (社)日本証券投資顧問業協会

【主なリスクと費用（くわしくは投資信託説明書（交付目論見書）を必ずご覧ください）】

主なリスク

当ファンドの主なリスクは以下のとおりです。

その他留意点など、くわしくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

金利リスク・・・一般的に金利が上昇すると債券の価格は下落します。当ファンドは、実質的に債券に投資をしますので、金利変動により基準価額が上下します。これにより投資元本を割り込むことがあります。

信用リスク・・・実質的に投資する債券や短期金融商品等の発行者が経営不安・倒産に陥った場合、またこうした状況に陥ると予想される場合等には基準価額が下がる要因となります。これにより投資元本を割り込むことがあります。

為替リスク・・・当ファンドは、実質組入外貨建資産について原則として対円で為替ヘッジを行わないため為替変動の影響を受けます。このため為替相場が当該実質組入資産の通貨に対して円高になった場合には基準価額が下がる要因となります。これにより投資元本を割り込むことがあります。

流動性リスク・・・当ファンドは、実質的に市場規模が小さい債券等に投資する場合があります。そのような市場では、資産規模や取引量が少ないため売却時に市場実勢から期待される価格で売却できなかったり、売買取引が困難となることから、価格の値動きが大きくなる場合があります。基準価額に影響をおよぼす可能性があります。これにより投資元本を割り込むことがあります。

カントリーリスク・・・実質的な投資対象国・地域における政治・経済情勢の変化等によっては、運用上の制約を受ける可能性があり、基準価額が下がる要因となります。これにより投資元本を割り込むことがあります。

お客様にご負担いただく費用について

以下の手数料等の合計額については、保有期間などに応じて異なりますので、表示することができません。詳細については、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

購入時	
購入時手数料	購入価額に3.15%（税抜3.0%）を上限として各販売会社が定める手数料率を乗じて得た額とします。 くわしくは販売会社にお問い合わせください。
換金時	
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	換金申込日の翌営業日の基準価額に0.1%を乗じて得た額とします。
保有期間中（信託財産から間接的にご負担いただきます。）	
運用管理費用 （信託報酬）	信託財産の純資産総額に対して年率1.4175%（税抜1.35%）を日々ご負担いただきます。
その他費用・手数料	組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託事務の諸費用、監査費用、外国での資産の保管等に要する諸費用等が信託財産から支払われます。（その他費用・手数料については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。）

当資料は7枚ものです。P7の「本資料のお取扱いについてのご注意」をご確認ください。

DIAMアセットマネジメント

商号等 : DIAMアセットマネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第324号
 加入協会 : (社)投資信託協会 (社)日本証券投資顧問業協会

【本資料のお取扱いについてのご注意】

- ・ 当資料は、DIAMアセットマネジメント(株)が独自に作成したものであり、金融商品取引法により義務づけられた資料ではありません。
 - ・ 当資料はあくまでも情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。
 - ・ 当ファンドは実質的に債券などの値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります。)に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者にかかる信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、購入金額については元本保証および利回り保証のいずれもありません。
 - ・ 当資料は、DIAMアセットマネジメント(株)が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また、掲載データはあくまでも過去の実績であり、将来の市場動向を示唆および運用成果を保証するものではありません。
 - ・ 当資料における見解はあくまでも作成時点(2011年6月20日)のものであり、今後予告なく変更される場合があります。また、将来の市場動向を示唆および運用成果を保証するものではありません。
- ・ 投資信託は
1. 預金・金融債・保険契約ではありません。また、預金保険機構及び保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
 2. 金融機関の預金・金融債あるいは保険契約における保険金額とは異なり、購入金額については元本保証及び利回り保証のいずれもありません。
 3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

弊社ホームページにて当ファンドに関する情報をご提供させていただいております。

ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

DIAMホームページ <http://www.diam.co.jp/>

DIAMコールセンター 0120-506-860

(受付時間：午前9時～午後5時。除く土、日、祝祭日。)

当資料は7枚ものです。P7の「本資料のお取扱いについてのご注意」をご確認ください。

DIAMアセットマネジメント

商号等 : DIAMアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第324号
加入協会 : (社)投資信託協会 (社)日本証券投資顧問業協会